

# 新人は、順調に育っているのか？

## ー フォロー研修の必要性② ー

毎年、新入社員に対して、“今年は〇〇タイプ”と名づけられています。今年の新入社員は「AIチャットボットタイプ」です。この意味は「適切な情報を与えると、想定を超える成果を発揮する可能性を持っている」だそうです。この世代は、ものごころがついたときからデジタルツールに触れており（デジタルネイティブ世代）、それを駆使して答えを導き出す力が優れています。そのようなことからこのタイプ名になったようです。

さて、貴社の新人は順調に育っているでしょうか。教育とはある意味で“適切な情報を提供する”ことでもあります。そのため、入社時の教育や配属後のOJTに力を入れている企業も多いでしょう。その教育成果は順調に出ているのでしょうか。

しかし、教育成果といっても、まだ業績に直結する業務を任されている新人は少なく、成果を業績で測定しにくいのではないのでしょうか。そこで、人事担当や上司が定期的に面談をしている企業も多いようです。そこで「楽しそうに仕事をしている」「特に問題はなさそうだった」「指示したことはちゃんとやってる」等など、このようなことから、“順調”と判断していないのでしょうか。

「AIチャットボットタイプ」として、本領を発揮するためには「適切な情報提供」が必要です。しかし、もっと大切なことは「与えられた情報を適切に理解できているか」ではないのでしょうか。いざ、仕事を任せたら（自分で考えさせたら）、教えたことの「本質を理解できておらず、再教育」ということになったら大変です。しかも、来年の新人がすでに内定しており、次の育成計画も立てなければならないときに、手が回らないのではないのでしょうか。

そこで、これまで教育してきたことの「本質を適切に理解」できているか、その確認をする必要があります。なぜなら、以前も問題提起しました（緊急提案・119）が、昨今の若手社員は「読解力が著しく低下している」（世界で15位）からです。読解力とは書籍に対してだけでなく、会話に対しても発揮される力です。これまで、丁寧に指導してきたことが「わかったつもり」になっていないのでしょうか。

本人は「わかった」と思っているのですから、いくら上司が「わかった？大丈夫？」と確認しても「大丈夫です」としか、答えは返ってこないでしょう。

だからこそ、今、新人のフォロー研修を通して、これまでの教育内容の本質理解度を確認する必要があります。その中で、「本質理解とは何か」「教育を受けたことの本質は具体的に何か」「これから、成果を上げられる社員になるためにどうしたらよいのか」等々を考え、修得する必要があります。

弊社の「新入社員フォロー研修」に興味・関心のある方は下記からお問い合わせ下さい。

> お問い合わせはこちら

